

＜金標準先物、ターミナルレートを織り込みインフレ需要へ回帰・・・＞



(出所：オアシス)

ISM 製造業景気指数で前月の 47.4 を上回る 47.7 となったが、仕入れ価格指数が前月から上昇するなどインフレがいまだに上昇している事を示し、中国の製造業 PMI や非製造業 PMI などが事前予想を上回る動きを見せ、中国の経済の力強さを受けた金需要増の観測が高まりを見せている。特にワールド・ゴールド・カウンシルは 1 月の中央銀行の金準備高は全体で 31 トン積み増しを行ない、中国は半数 15 トンを積み増しするなど 3 ヶ月連続の増加を示している。

また市場はターミナルレートの 5.25%を上回る観測を織り込み、ボスティック・アトランタ連銀総裁はデータ次第と前置きを見せながら、いつ利上げを停止する可能性があるかの質問に「夏の半ば、夏の後半までにそうなる可能性がある。状況を見してみる必要があるだろう」と述べるなど金価格を押し上げている。その事で金標準先物は 7976 円を超えて雇用統計からの下落した巻き戻しを示しており、来週は 8100 円の抵抗帯を試す可能性は強まっていると思える。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が上昇し、**シグナル**も上昇するなど強気を維持し、RCI では**短期**が上昇し、**長期**も上昇を行なうなどオシレーターは強気の継続を示唆している。そのため日足が 1 月に試した高値 8098 円を試す可能性は高まっており、安易な値ごろ感で売り込む事は避けた方が無難と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 4,500,000 円(2023 年 3 月 6 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2023 年 3 月 6 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>